

令和7年度（2025年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

【C日程入試】法律専門科目試験

民法 出題の意図

問題1

「除斥期間」に関する基本的知識・理解を確認する。意義、消滅時効との異同、具体例に基づく説明など、さまざまな観点からの説明を期待する。

問題2

本問は、賃借権が設定された土地の所有権移転に伴う法律問題を問うものである。請求①と請求②がそれぞれ認められるかが問われているが、請求①（所有権に基づく物権的返還請求）では、土地の譲受人と土地賃借人の対抗関係が問題となる。他方、請求②では、土地の譲受人が賃貸人たる地位を土地賃借人に移転登記なしに主張できるかどうか問題となる。

本問は、判例の知識を直接問うものではないが、平成29年民法（債権関係）改正の際に新設された条文（とりわけ605条の2）を駆使し、条文を前提に一定の結論を導くことができるかという法学既修者としての基本的な思考方法が問われている。

記述にあたっては、問題提起、規範定立（要件論・解釈論）、あてはめ、結論が論理的に矛盾なく展開されることが重要であり、結論では、「問われていることに過不足なく解答する」ことが期待される。

以上、本問によって、民法に関する基礎的学識を習得し、かつ、問題抽出力、論理的思考力・判断力、法的分析力及び表現力を備えているかどうかを判定する。